

平成22年度（2010年度）

公立大学法人広島市立大学の業務実績に係る評価結果

平成23年（2011年）8月

広島市公立大学法人評価委員会

公立大学法人広島市立大学の各事業年度における業務実績の評価方法及び基準について

1 法人による自己評価

- (1) 年度計画の記載事項ごとの実施状況を以下の5段階により自己評価し、評価理由と併せ、実績報告書に記載の上評価委員会に提出する。

評価の記号	実施状況の説明
s	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
a	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
b	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
c	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「b」とすることができる。
d	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

- (2) 年度計画の小項目及び大項目ごとの自己評価についても(1)と同様とする。

2 評価委員会による評価

(1) 小項目評価

ア 「中期計画の達成に向けて、各事業年度の業務を順調に実施しているかどうか」という観点から、法人による自己評価を踏まえつつ、年度計画の内容の妥当性も含めて、小項目ごとに以下の5段階により評価する。

評価の記号	実施状況の説明
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。

イ 評価委員会の評価が法人による自己評価と異なる場合は、その理由等を示すものとする。

(2) 大項目評価

小項目評価を踏まえ、大項目ごとに以下の5段階により評価するとともに、特筆すべき事項等があればその旨のコメントを記載する。なお、評価の記号ごとに以下の評点を付す。

評価の記号	実施状況の説明	評点
S	質・量双方において年度計画を上回って実施されている。	5
A	質・量いずれか一方において年度計画を上回って実施されている。ただし、他方において年度計画を下回って実施されている場合を除く。	4
B	質・量双方において年度計画どおり実施されている。	3
C	質・量いずれか一方において年度計画を下回って実施されている。ただし、他方において年度計画を上回って実施されている場合は、双方の実施状況を総合的に勘案して「B」とすることができる。	2
D	質・量双方において年度計画を下回って実施されている。	1

(3) 全体評価

大項目ごとに以下の評価比率を配分し、大項目評価の評点を加重平均（評点×評価比率を合計）した結果を基に評価する。また、法人による実績報告書の記述等を踏まえ、中期計画の実施状況に係るコメントを記載する。

大項目	評価比率
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	20%
2 学生への支援	10%
3 研究	15%
4 社会貢献	15%
5 国際交流	10%
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	15%
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	15%

評価の基準	評価の記号等
4. 5 < X	S 法人の業務は、中期計画の達成に向けて極めて順調に実施されている。
3. 5 < X ≤ 4. 5	A 法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。
2. 5 < X ≤ 3. 5	B 法人の業務は、中期計画の達成に向けて概ね順調に実施されている。
1. 5 < X ≤ 2. 5	C 法人の業務は、中期計画の達成に向けて十分に実施されていない。
X ≤ 1. 5	D 法人の業務には、中期計画を達成するために重大な改善事項がある。

※ Xは大項目評価の評点×評価比率の合計

公立大学法人広島市立大学 平成 22 年度(2010 年度)業務実績に係る評価

全体評価

評価の記号

A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。

評価コメント

平成 18 年 3 月に「広島市立大学のあり方」に関する提言を受け、これまで過去 4 年にわたり大学自ら見直し強化の取組を進め、その集大成として、高い目標を掲げて法人化に踏み切った。今回が初めての法人評価となるため、評価に際してはこのような継続的な努力の成果の把握にも努めた。

「国際平和文化都市の「知」の拠点－地域と共生し、市民の誇りとなる大学－」を目指し、教育・研究組織の意思決定機関の統合化と戦略的計画の策定・実施、教員の自己活動の公開と創意工夫への支援、業務運営の改善による自己収入の増加を伴う効率化への取組を行っている。

そして、これらの取組の下で展開された個々の具体的な成果としては、ゼミ形式の「基礎演習」や「いちだい知のトライアスロン」の導入による全学共通教育の多様化と「平和学」を軸とした大学院教育の強化、「市大キャンパスウォーキング」を始めとした学生への学習支援と就職支援、その結果としての高就職率の実現、研究資金の獲得努力の結果としての外部資金の増加、従来からの課題であった平和研究所と国際学部との融和的協働による研究体制の強化、社会連携センターの強化に基づく地域産業界や広島市等多様な連携機関とのネットワークの強化等、多くの成果を上げている。

また、新たな業務運営体制の構築や人事制度の構築については法人化のメリットを十分生かした取組が行われている。さらに、地域・教育現場・産業界などのニーズに応え、市民の中で大学としての使命を果たしている。

一方、研究体制及び危機管理体制など一層の強化が望まれる点もあるが、法人化初年度という厳しい状況の下、大学内の絶妙なチームワークと、広島市担当部局の真摯な協力体制があったがゆえに、達成できた成果であると高く評価し、市民と共にこの順調なスタートを喜びたい。

組織、業務運営等に関する改善事項等について

組織、業務運営等に関し、特に改善を勧告すべき点はない。

項目別評価（総括表）

評価項目	評価の記号
第2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 教育	A
(1) 教育内容の充実	
ア 全学共通教育	A
イ 特色ある教育	B
ウ 学部専門教育	B
エ 大学院教育	A
(2) 教育方法の改善	
ア 授業内容及び授業方法の改善	B
イ 学習環境及び学習支援体制の整備	B
ウ 成績評価システムの整備	B
(3) 積極的な広報と学生の確保	
ア 積極的な広報	A
イ 学生の確保	B
(4) 教育実施体制の整備	
ア 教職員の配置等	A
イ 教育環境の整備	B
ウ 芸術情報の利用環境の整備	B
2 学生への支援	A
(1) 学習支援	A
(2) 日常生活支援	-
(3) 健康の保持増進支援	B
(4) 就職支援	A
(5) 課外活動支援	-
(6) 経済的支援	B
(7) 留学生支援	B
3 研究	A
(1) 研究活動の活性化と成果の普及	
ア 研究活動の活性化	B

評価項目	評価の記号
イ 研究成果の普及及び還元	A
(2) 研究体制の強化	A
4 社会貢献	A
(1) 生涯学習ニーズへの対応	A
(2) 「産学公民」連携の推進	
ア 地域産業界との連携	A
イ 国、地方自治体等との連携	A
ウ 学術機関及び研究機関との連携	A
エ 小中等高等学校等との連携	B
(3) 社会連携センターの機能の充実	
ア 社会連携センターの体制整備	B
イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援	B
ウ 研究成果、学内資源等の活用	B
エ 学生の育成	B
5 国際交流	B
(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開	B
(2) 留学生への支援体制の充実	B
第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A
1 運営体制	S
2 人事	A
3 事務処理	B
第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	B
1 自己収入の増加	A
2 管理経費の抑制	B
第5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置	A
第6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置	B
1 施設及び設備の適切な維持管理等	B
2 安全で良好な教育研究環境の確保	C

項目別評価

中期目標	中期計画	平成 22 年度 (2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 2 教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標	第 2 教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置 1 教育 (大項目)					
(1) 教育内容の充実 全学共通教育では、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性をかん養するとともに、グローバル化や情報化の進展等時代の潮流に対応できる能力を身に付けさせる教育を行う。	(1) 教育内容の充実 ア 全学共通教育 (小項目) (ア) 自立的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目を開設する。 (イ) 学生に、読書や美術鑑賞、映像鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい	○科目「基礎演習」の全学実施 ○科目「基礎演習」の実施結果の評価、科目内容の見直し ○「いちだい知のトライアスロン」事業の実施	大項目評価 中期計画に掲げる重点取組項目である「初年次教育の充実」、「全学共通教育の充実」及び「平和学のカリキュラムの確立及び学位（修士）の授与」を中心に、計画に掲げる取組を着実に実施した。 特に、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目「基礎演習」の全学での実施は、学生の満足度も高く、初年次教育の充実に大きく貢献した。また、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業の実施は、全国的にも例を見ないユニークな取組であることに加え、全学共通教育の充実に大きく貢献した。 さらに、全学的な協力体制の下で実施した「平和学」の学位（修士）授与のためのカリキュラム整備は、「国際平和文化都市」を都市像として掲げる広島市が設立した大学としての存在価値を明確に示すことにつながった。 以上のように、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 教育全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A
			小項目評価 ○自立的学習能力やコミュニケーション能力等の養成を図るため、科目「基礎演習」を平成 22 年 4 月から全学で実施した。 ○平成 22 年 4 月から、学生に読書や美術鑑賞、映画鑑賞を通じて専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる「いちだい知のトライアスロン」事業を開始した。 ○外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、「英語応用演習」の担当者を対象にしたアンケート調査を実施することにより新テキストの教育効果の検証を行った。また、「CALL 英語集中」の履修者を対象としたアンケート調査を実施し、履修者の受講中における学習記録データと TOEIC テストの伸びとの関連性に関する分析を実施した。 ○全学共通教育の在り方について全学的視点から検討するため、平成	a	〔評価理由〕 全学共通教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○「基礎演習」の全学実施を始め、全国的にも例を見ない「いちだい知のトライアスロン」の開始など、総じて計画を上回って実施している。 ○目的に合わせて独自に設計された施設及びそこに設置	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度 (2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。</p>	<p>知のトライアスロン」事業を実施する。</p> <p>(ウ) 外国語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、外国語教育の充実を図る。</p> <p>(エ) 全学共通教育のあり方について、全学的視点から検討し、その結果をカリキュラム等に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>○「英語応用演習」新テキストの教育効果の検証</p> <p>○「CALL 英語集中」の改善、検証</p> <p>○全学共通教育委員会の設置</p> <p>○全学共通教育に関する学生・教員を対象としたアンケート調査の実施</p>	<p>22 年 4 月に全学共通教育委員会を設置したほか、平成 22 年 7 月に学生及び教員を対象とした全学共通教育に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>上記に掲げる取組のうち、科目「基礎演習」は、中期計画に掲げる「初年次教育において、特定の学術分野を定めず多様な問題について少人数のセミナー形式で調査研究し、討論する科目」として全学で新たに導入した科目であり、10 人程度の小クラス編成として各クラスに 1 名の教員を割り当てることで高い教育効果を実現し、学生の満足度も高かった。また、「いちだい知のトライアスロン」事業は、読書、美術鑑賞及び映画鑑賞を教育カリキュラムに組み込み、教員が学生の読書等に積極的に関わることで学生の教養を高める、全国的にも例を見ないユニークな取組であり、関連イベントを多数開催した（20 回：計 206 名参加）。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		<p>された設備機器の充実は特筆できる。そのために学生の利用度、利用効果も非常に高い。</p> <p>○新しい試みにチャレンジして、期待される成果を上げている。</p>	
	<p>「国際平和文化都市」を都市像とする広島市の設立した公立大学法人が設置する大学として、平和に関する教育を積極的に推進するとともに、学生が国際性を養う機会の充実を図る。</p>	<p>イ 特色ある教育（小項目）</p> <p>(ア) 平和に関する教育を推進するため、平和研究所が全学の平和関連講義等に積極的に参画する。</p> <p>(イ) 国際性を養うため、学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>a 夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の充実を図る。</p> <p>b 平和記念式典やピースキャンプ（国内外の平和記念式典参列者のために大学運動場内に開設するキャンプサイトをいう。）等多数の外国人が参加する行事への</p>	<p>○全学共通系科目に広島・平和科目を開設し、平和研究所の教員が教育に参画</p> <p>○大学院の全研究科共通科目「国際関係と平和」を平和研究所長が担当</p> <p>○実施委員会におけるカリキュラム内容の検討</p> <p>○受講者へのアンケート調査の実施</p> <p>○異文化に触れることができる行事の調査</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平和に関する教育を推進するため、平成 22 年 4 月に全学共通系科目として広島・平和科目 4 科目を開設するとともに、このうちの 3 科目を平和研究所の教員 2 名が担当したほか、大学院の全研究科共通科目「国際関係と平和」を平和研究所長が担当した。</p> <p>○学生が異文化に触れる機会や国際的に活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」について、実施委員会を開催するなどによりカリキュラム内容の検討を行うとともに、当該プログラム終了前に全受講者に対しアンケート調査を実施し、報告書にまとめた。</p> <p>○多数の外国人が参加する行事への学生の積極的な参加を促すため、平成 23 年 2 月に全教職員に対し、当該行事に係る調査を実施した。</p> <p>○学生が国際機関、国際的 NGO 等の国際分野の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図るため、国際学部において、当該学部がこれまで実施してきた研究コロキウムを学生に開放し、学生の積極的な参加を促した。こうした取組により、平成 22 年 11 月開催の JICA（独立行政法人国際協力機構）の職員等による「開発協力・平和構築講座」等、計 10 回の講演会を開催した。</p> <p>以上のように、特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>特色ある教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○全学及び大学院全研究科の共通科目に、平和関連の科目を採り入れていることは、広島市立大学が目指している課題や目的、学びの将来像を明らかにしたもので、希望に満ちた試みだと評価できる。</p> <p>○異文化に触れる参加型の取組を進める試みも評価できる。</p> <p>○今後、特色ある 3 学部 1 研究所の構成を生かした横断的なカリキュラムを打ち出してほしい。</p>

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>学部専門教育では、各学部の理念と専門分野の特色に対応した効果的な専門教育を行う。</p>	<p>学生の積極的な参加を促す。</p> <p>c 学生が国際機関や国際的 NGO 等の第一線で活躍する人材と交流する機会の充実を図る。</p> <p>ウ 学部専門教育（小項目）</p> <p>(ア) 学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、学部専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した新教育課程について、教育内容と成果に関する学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>b 情報科学部では、平成 19 年度（2007 年度）に導入した情報工学、知能工学、システム工学の三学科の一括募集及び学科配属方法等について学内アンケート調査等を行い、必要に応じて見直しを行う。</p> <p>また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、「PDCA」サイクルを機能させながら継続的に教育活動の改善に取り組む。</p> <p>c 芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付け</p>	<p>○国際的に活躍する者を講師とする講演会の開催</p> <p>○学生・教員に対するアンケート調査の実施による課題の把握</p> <p>○学生に対するアンケート調査の実施による課題の把握</p> <p>○卒業生が就職した企業等にヒアリング、アンケート調査を実施</p> <p>○「造形応用研究」の複数回受講の促進方策に係る検討</p>				
			<p>小項目評価</p> <p>学生の多様化に対応するとともに、社会で通用する実践的な能力を身に付けた学生を養成するため、以下のとおり各学部において学部専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学部では、平成 19 年度に導入した新教育課程について、平成 22 年 12 月に学生に対し、平成 23 年 1 月に教員に対し、教育内容と成果に関するアンケート調査を実施した。</p> <p>②情報科学部では、平成 19 年度に導入した情報工学、知能工学、システム工学の 3 学科の一括募集、学科配属方法等について、平成 22 年 4 月に学生に対しアンケート調査を実施した。また、多様化した学生への効果的な教育を実現するため、平成 22 年 11 月に開催した企業向けの大学説明会において、「今後の教育についての要望」等に係るアンケート調査及びヒアリングを実施したほか、随時企業の採用担当者との面談及びヒアリングを実施した。</p> <p>③芸術学部では、芸術の持つ社会的役割を深く認識し、社会の中で表現活動を実践できる素養を身に付けさせるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」について、参加学生に対する調査を実施したほか、履修手続の効率化及び複数回受講の検討を行った。</p> <p>以上のように、学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学部専門教育の充実のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>大学院教育では、それぞれの専門分野における優れた研究能力と高度な専門知識に加えて、学際的視野と国際性を身に付けさせ、国際社会や地域の発展に貢献できる研究者及び高度専門職業人を養成する。また、広島の高専教育研究機関としての存在価値を明確に示すため、「平和学」の構築を実現する。</p>	<p>させるため、研究プロジェクトへの参画を単位認定する「造形応用研究」の充実を図り、学科・領域を越えた総合的な教育を行う。</p> <p>エ 大学院教育（小項目）</p> <p>(ア) 学際的視野と国際性を身に付けさせるため、大学院における共通教育のあり方について検討し、大学院全研究科共通科目の見直しを行う。</p> <p>(イ) 学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、大学院専門教育の充実に取り組む。</p> <p>a 国際学研究科では、専門基礎科目の見直しを行う。</p> <p>b 情報科学研究科では、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを提示し、その履修による教育効果を評価する。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等高度専門職業人に必要な能力を身に付けさせるため、教育内容の充実を図る。</p> <p>c 芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成する</p>	<p>○新規科目の開設に向けた検討</p> <p>○専門基礎科目の見直し</p> <p>○組み込みソフトウェア関連科目のモデルカリキュラムの提示</p> <p>○プレゼンテーション、コミュニケーション能力等強化のためのカリキュラムの検討</p> <p>○「文化財保存学特講」の新設</p>	<p>小項目評価</p> <p>○大学院における共通教育の在り方について検討するに当たり、学際的視野と国際性を身に付けさせるための新規科目の開設に向けた検討を行うことにしていたが、平成 22 年度に開設した新規科目（1 科目）の効果を検証した上で、平成 23 年度以降に本格的な検討を行うことにした。</p> <p>○学生の多様化に対応するとともに、専門分野において優れた研究能力と実践的スキルを身に付けた学生を養成するため、以下のとおり各研究科において大学院専門教育の充実に取り組んだ。</p> <p>①国際学研究科では、専門基礎科目の教育内容の一貫性の確保と授業目的の明確化を目的として、平成 22 年 4 月に総合セミナー4 科目（「総合国際社会研究セミナーA」、「同 B」、「総合地域研究セミナーA」、「同 B」、各 1 単位）を、「学術研究の進め方」、「学術研究のための基礎設計」（各 2 単位）に変更する見直しを行った。</p> <p>②情報科学研究科では、組み込みソフトウェア関連科目について、学部カリキュラムとの連携を図り、学習課題を複数の科目を通して体系的に履修するモデルカリキュラムを構築するとともに、その効果を検証するため、学生のみならず社会人を受講対象者に加えて授業を実施した。また、論文執筆、学会発表等におけるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等を強化するためのカリキュラムの検討を行った。</p> <p>③芸術学研究科では、文化芸術の保存の分野における高度な専門能力を養成するため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、平成 22 年 7 月及び 9 月に集中講義を実施した。当該科目は、九州国立博物館と連携した現地での講義等、他大学にはない特色ある科目であり、芸術学研究科における教育基盤の強化につながった。</p> <p>○「平和学」の構築を実現するため、平成 22 年 5 月に「平和学」カリキュラム調査・検討部会を設置したほか、国内外の大学を調査するための経費として学長指定研究費を配分するなど、全学的な協力体制の下で検討を進め、平成 22 年 11 月に「平和学」の学位（修士）</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>大学院教育について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○「平和学」のカリキュラム整備は中期計画に掲げる重点取組項目の一つであり被爆地広島の大学ならではの魅力的なカリキュラムになっている。また、専門基礎教育の一貫性確保等、各研究科において大学院専門教育の充実が図られるなど、初年度の取組としては計画を上回っている。</p> <p>○3 学部 1 研究所の連携が見えにくい。研究水準も日本全体の水準で考えると物足りない。各研究科等の水準向上及び有機的連携の強化において、まだなし得る点があるように思われる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ため、保存科学・文化財学に関する授業科目「文化財保存学特講」を新設し、段階的に拡充を図る。</p> <p>(ウ) 全学的な協力体制を整備し、「平和学」の構築を実現する。</p> <p>a 平和研究所と国際学研究所が連携し、「平和学」のカリキュラムを確立するとともに、「平和学」の学位(修士、博士)を授与する。</p> <p>b 「平和学」のカリキュラムが、留学生に対しても魅力あるものになるよう、英語による講義の充実を図る。</p>	<p>○「平和学」カリキュラム調査・検討専門部会の設置</p> <p>○「平和学」の学位(修士)授与のためのカリキュラム整備</p> <p>○英語による履修が可能な「平和学」カリキュラムの実施に係る検討</p>	<p>授与のためのカリキュラムを整備し、平成 23 年 1 月から募集を開始した。また、当該部会において英語で提供可能な科目の検討を行った。</p> <p>上記の取組のうち、「平和学」の学位(修士)授与のためのカリキュラム整備については、中期計画に掲げる重点取組項目の一つであり、被爆地広島の大学ならではの魅力的なカリキュラムを整備したこと、また各研究科において大学院専門教育の充実が図られたことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
<p>(2) 教育方法の改善</p> <p>各学部及び研究科の教育目標を実現し、学生にとって魅力ある授業を提供するため、授業内容や授業方法の改善を図る。</p>	<p>(2) 教育方法の改善</p> <p>ア 授業内容及び授業方法の改善(小項目)</p> <p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、授業アンケートの実施、セミナーの開催等の FD 活動(Faculty Development: 教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。)を積極的に行う。</p>	<p>○学生・教員に対する授業アンケートの実施</p> <p>○授業改善に関する研修会(FD 研修会)の開催</p>	<p>小項目評価</p> <p>本学の教育方針に沿った教育を推進し、学生の視点に基づいた授業内容及び授業方法の改善を図るため、平成 22 年 7 月～9 月(前期)、平成 23 年 1 月～2 月(後期)に学生及び教員に対し授業アンケートを実施したほか、平成 22 年 11 月から計 3 回にわたり全学共通教育研修会等の授業改善に関する研修会(FD (Faculty Development: 教員の教育能力を高めるための組織的取組をいう。)研修会)を開催した。</p> <p>以上のように、参加者数も多く、参加者の評価も高かった FD 研修会の開催を始めとして、授業内容及び授業方法の改善のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>授業内容及び授業方法の改善のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○計画された取組は実践されている。今後、更に授業改善を図る具体的な取組につなげられると良いと思う。</p>	B
<p>また、学生が自主的かつ主体的に学習に取り組むことができるよう、学習環境や学習支援体制を整</p>	<p>イ 学習環境及び学習支援体制の整備(小項目)</p> <p>(ア) 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図る</p>	<p>○全学オリエンテーション行事の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>新入生の大学への適応が円滑に進むよう、新入生オリエンテーション時において、新入生全員が教員と共に大学の施設を見学する「市大キャンパスウォーキング」を実施した。また、インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみ</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学習環境及び学習支援体制を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
備する。	とともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。 (イ) インターネットを通じて、時間、場所を選ばず、授業の補習ができるよう、また、学生のみならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、授業、公開講座等様々な教育研究活動をデジタルアーカイブ化し、コンテンツの充実を図る。 (ウ) 学生が自習やグループ学習等のために使用することができるよう、学生ラウンジや自習室等を整備する。	○教育研究活動のデジタルアーカイブ化に係る検討	ならず市民に対しても学習機会の提供ができるよう、一部の授業について先行的にデジタルアーカイブ化を行い、当該授業の欠席者に対してコンテンツを提供した。 以上のように、大学への円滑な適応を図るための取組として優れたものと評価した「市大キャンパスウォーキング」の実施を始めとして、学習環境及び学習支援体制を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。		した。 【コメント】 ○大学への円滑な適応を図るための優れた取組と評価できる「市大キャンパスウォーキング」の実施を始めとして、新しい数々の試みに挑戦し、着実に実施した。	
さらに、授業科目の到達目標と成績評価基準を明示するとともに、学生の学習意欲の向上につながる成績評価システムを整備する。	<u>ウ 成績評価システムの整備</u> <u>(小項目)</u> (ア) 成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) の導入、履修登録単位数の上限や成績評価基準の見直しを行う。 (イ) 芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、課題制作作品や入選入賞作品の画像データをデータベース化する。	○GPA の導入 ○履修登録単位数の上限、4 年次進級、卒業要件の見直し ○芸術作品データベース作成のための画像データ等の資料収集	<u>小項目評価</u> ○成績評価の厳格化と単位の実質化を図るため、平成 22 年 4 月から GPA (Grade Point Average : 履修科目ごとの成績に評点を付けて、全科目の平均値を算出する成績評価システムをいう。) を導入した。また、履修登録単位数の上限及び卒業要件の見直しを行い、平成 24 年度から実施することにしたほか、4 年次進級要件の見直しを行い、平成 23 年度から実施することにした。 ○芸術学部では、教育効果を測る指標とするため、平成 23 年 2 月に平成 22 年度の各専攻及び分野における課題制作作品及び入選入賞作品の画像データ等 (2,079 点) の資料収集を行った。 以上のように、中期計画に掲げる「単位の実質化」を実現する上で重要な取組として優れたものと評価した履修登録単位数の上限等の見直しを始めとして、成績評価システムを整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 成績評価システムを整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
(3) 積極的な広報と学	(3) 積極的な広報と学生の確					

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>生の確保</p> <p>広島市立大学のイメージ戦略を策定し、ホームページ、刊行物等の充実を図ることにより、効果的な広報を行う。また、広島市立大学の建学の基本理念及び使命に沿い、「国際的な大学」及び「市民の誇りとなる大学」として、留学生及び社会人学生の受入れを積極的に進める。</p>	<p>保</p> <p>ア 積極的な広報（小項目）</p> <p>(ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。</p> <p>(イ) オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等において、高校生、高校進路指導担当教員、保護者等にアンケート調査等を行い、その分析結果を広報活動に反映させる。</p> <p>(ウ) 大学院案内の内容を見直しとともに、英語版を作成する。</p> <p>(エ) 地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査等から本学に対するイメージ分析を行い、ブランドイメージ戦略を構築するとともに、タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）、シンボルデザイン等を作成する。</p> <p>イ 学生の確保（小項目）</p> <p>(ア) 社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度を導入し、社会人が履修しやすい環境を整備する。</p>	<p>○全学・各学部のホームページの整備・改善</p> <p>○モバイルサイト用、CMSサーバの構築・運用開始</p> <p>○全学ホームページと各学部のホームページとの連携等を含めた管理・運用ルールの整備</p> <p>○オープンキャンパス、高校進路指導担当教員説明会等におけるアンケート調査の実施</p> <p>○大学院案内の内容の見直し</p> <p>○地域住民、受験生、在学生等に対するアンケート調査の実施</p> <p>○タグラインの作成</p> <p>○長期履修制度の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○平成 22 年 10 月に全学のウェブサイトを全面的にリニューアルしたほか、既存の情報科学部のウェブサイトに加え、平成 22 年 7 月には国際学部のウェブサイトを開設するとともに、平成 23 年 4 月の平和研究所のウェブサイト開設に向けた作業を行った。また、平成 22 年 10 月に CMS（コンテンツ管理システム）を使用し、ウェブサイト再構築したほか、携帯電話からコンテンツを快適に閲覧するためのモバイルサイト用ページを作成するシステムを導入した。さらに、平成 22 年 10 月に「広島市立大学ウェブサイト運用管理要綱」等を制定し、企画・広報委員会委員長を全学ウェブサイトの管理者とするとともに、各学部ウェブサイトにおける管理責任者を設置した。</p> <p>○大学に対するイメージについてのアンケート調査を、平成 22 年 8 月に開催したオープンキャンパスと、9 月に開催した高校進路指導担当教員説明会において実施した。</p> <p>○大学院案内について、A4 版から A5 版への規格変更を決定するとともに、大学案内と関連させた表紙デザイン案を作成した。</p> <p>○タグライン（広告等で用いるキャッチフレーズをいう。）を決定するとともに、その使用基準及び表示デザイン（コミュニケーションデザイン）を検討するためのワーキンググループを設置した。</p> <p>上記の取組のうち、全学のウェブサイトの全面的なリニューアルについては、ウェブサイトのデザイン及びユーザビリティが大幅に向上したこと、新規コンテンツの掲載件数等（例：全学ウェブサイト「お知らせ」掲載件数：平成 21 年 10 月～平成 22 年 3 月：100 件 ⇒ 平成 22 年 10 月～平成 23 年 3 月：188 件）が大幅に増加したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>積極的な広報について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○タグラインの決定は評価できるが、今後はより積極的に活用すべきだと思う。</p> <p>○ホームページの整備については評価できる。</p> <p>○項目には挙がっていないが、大学案内も見やすくなり（目次による検索のしやすさとデザイン性アップ）、内容も充実した。年間スケジュールや課外活動についてのページが加わっている。</p>	A
			<p>小項目評価</p> <p>○社会人学生について、修学年限、授業料等学生納付金を柔軟に設定できる制度として、長期履修制度の導入に係る検討を行い、平成 24 年度入学生から当該制度を適用可能とする規程を整備した。</p> <p>○芸術学研究科では、大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示に関する検討を行い、学部生を対象とした修了制作作品</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
(4) 教育実施体制の整備 学生の多様化や社会の変化に速やかに対応するとともに、広島市立大学の教育に関する目標を実現するために必要な教育実施体制を整備する。	(イ) 国際学研究科では、優秀な留学生を確保するため、海外学術交流協定大学の学生を対象とした推薦入試を実施する。 (ウ) 芸術学研究科では、大学院進学者を確保するため、大学院の教育研究や大学院修了後の進路等についてのガイダンス、大学院研究成果の発表展示会の開催等の取組を進める。 (4) 教育実施体制の整備 ア 教職員の配置等(小項目) (ア) 大学の教育目標を実現するため、全学的かつ中長期視点から教職員を戦略的かつ機動的に任用し、配置する。 (イ) 学生の多様化に対応したきめ細かい教育を実施するため、ティーチングアシスタント(大学院生が教育の補助を行う制度をいう。)、リサーチアシスタント(大学院生が研究の補助を行う制度をいう。)等の教育支援体制を整備、拡充する。 イ 教育環境の整備(小項目) (ア) 学生の多様なニーズ等に的確に対応するため、各附属施設間の連携を強化し、情報共有、施設及び設備の共同利用、イベントの	○大学院ガイダンスの充実及び芸術資料館における作品展示に関する検討 ○人事委員会の設置 ○教職員の任用に関する基本方針の検討 ○所蔵資料の共同利用方法の検討、順次共同利用を開始 ○相互ホームページへのリンクの作成等による	の公開プレゼンテーションの実施、芸術資料館における博士前期・後期課程の大学院生の作品展示等の取組を行った。 以上のように、学生の確保を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。			
			小項目評価 平成 22 年 6 月に理事長、理事(常勤)、学部長及び平和研究所長で構成する人事委員会を設置し、当該委員会において教員の採用及び昇任に係る仕組みを構築し、全学的かつ中長期的視点からの教員の任用に着手した。 当該取組は、中期計画に掲げる重点取組項目であり、これまで学部主導で行ってきた教員の任用を全学的かつ中長期的視点で実施するという大幅な変更を理事長(学長)のリーダーシップの下、短期間で実現したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 教職員の配置等について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○教員の任用・昇任に関する人事の新しいシステムは、教員サイドにおいても次第に浸透し始めている。 ○全学的な視野から教員の任用が可能となり、学部間の連携にもつながると評価できる。	A
			小項目評価 ○平成 22 年 4 月に附属図書館及び語学センターにおいて所蔵映画資料の相互利用を開始したほか、平成 22 年 12 月から平成 23 年 1 月までの間に映画上映会を附属図書館及び語学センターの共同で開催するとともに、平成 22 年 4 月に「いちだい知のトライアスロンウェブサイト」のトップページで相互リンクを作成し、所蔵映画リ	b	〔評価理由〕 教育環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>共同開催等に取り組む。</p> <p>(イ) すべての講義室において視聴覚教材が使用できる環境を整備する。</p> <p>(ウ) 平和研究所の教育への参画、平和研究所と各学部及び研究科との連携を強化するため、平和研究所の大学敷地内への移転に取り組む。</p> <p>ウ 芸術情報の利用環境の整備 (小項目)</p> <p>(ア) 芸術資料館の所蔵品をデータベース化するなど、芸術情報を有効に利用することができる環境を整備する。</p> <p>(イ) 学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせるため、芸術資料館の企画等による美術鑑賞事業を実施する。</p>	<p>所蔵資料を互いに参照可能な体制の整備</p> <p>○視聴覚設備の更新計画の策定</p> <p>○所蔵品のデータベース化の検討</p> <p>○美術鑑賞事業の実施</p>	<p>ストを附属図書館及び語学センターの双方の窓口で提供できるようにするなど、各附属施設間の連携強化に取り組んだ。</p> <p>○視聴覚設備の更新計画を策定し、2 講義室に視聴覚設備を設置するとともに、残る視聴覚設備のない 10 講義室についても、既存の備品を有効活用することにより、全ての講義室において視聴覚教材が使用できる環境が整備された。</p> <p>以上のように、計画を前倒して実現した取組として優れたものと評価した視聴覚設備の整備を始めとして、教育環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>芸術資料館の所蔵品のデータベース化、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催による「いちだい知のトライアスロン」関連イベントの講演会、ギャラリートークの開催など、芸術情報の利用環境の整備に取り組んだ。</p> <p>以上のように、中期計画に掲げる「学生に専門分野を越えた幅広い教養を身に付けさせる」ための有効な取組として評価した「いちだい知のトライアスロン」関連イベントの開催を始めとして、芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>芸術情報の利用環境を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○芸術資料館の所蔵品のデータベース化を図り、広島から受発信する美術状況の中核の一つとなりつつあることは評価できる。</p>	B
<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>すべての学生が心身ともに健康で充実した大学生活を送ることができるよう、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で適切な支援を行う。</p>	<p>2 学生への支援 (大項目)</p>		<p>大項目評価</p> <p>大学への円滑な適応を図るための取組として優れたものと評価した「市大キャンパスウォーキング」(新入生全員が教員と共に大学施設を見学するもの)の実施を始めとして、学生相談室の機能拡充に係る検討、就職支援体制の整備など、学習や生活環境、健康管理、進路、課外活動等様々な面で学生を支援するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生への支援全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○他大学に比してよくやっていると思われる。</p> <p>○大学への円滑な適応を図るための優れた取組と評価できる「市大キャンパスウォーキング」の実施をはじめとして、新しい数々の試み</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	<p>(1) 学習支援（小項目） 新入生の大学への適応が円滑に進むよう、オリエンテーションの充実を図るとともに、チューターによるきめ細かい学習支援及び相談を行う体制を整備する。(再掲)</p> <p>(2) 日常生活支援（小項目） 学生の日常生活を支援するため、学生会館の機能の拡充、大学周辺への店舗の誘致等に取り組む。</p> <p>(3) 健康の保持増進支援（小項目） 学生の心身の健康の保持増進を図るため、教職員と医務室及び学生相談室との連携を強化するとともに、カウンセラーによる相談時間を増やすなど、医務室及び学生相談室の機能を拡充する。</p> <p>(4) 就職支援（小項目） ア 教職員が連携して個々の学生の資質、希望を的確に把握し、指導する体制を整備する。 イ 卒業生による就職セミナー等学生に対する就職支援事業の企画内容を工夫するとともに、学生に対してよりきめ細かい就職関連情報を提供する。</p> <p>(5) 課外活動支援（小項目）</p>	○全学オリエンテーション行事の検討	<p>小項目評価 新入生オリエンテーション時において、新入生全員が教員と共に大学の施設を見学する「市大キャンパスウォーキング」を実施し、オリエンテーションの充実を図った。 当該取組は、新入生が新しい友人や指導教員と知り合う機会を提供することで大学への適応を円滑にする有効な取組であること、各学部の連携により全学で実施した取組であることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>に挑戦し、着実に実施した。</p> <p>〔評価理由〕 学習支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A	
		○医務室・学生室の機能拡充の検討	<p>小項目評価 学生相談室の機能拡充を図るための検討を行い、保健管理室の設置及び専任のカウンセラー（臨床心理士）の配置を決定した。 以上のように、学生の心身の健康の保持増進を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学生の心身の健康の保持増進を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○カウンセラーの配置決定及びメンタルヘルスへの取組は積極的に評価できる。</p>	B	
		○就職指導・支援体制の見直し	<p>小項目評価 教職員が連携して個々の学生の資質及び希望を的確に把握し、指導する体制として、平成 22 年 6 月に事務局長、教育・研究担当副学長、各学部の教員及び事務局次長で構成する就職・キャリア形成支援委員会を設置し、ガイダンス・セミナーの充実、ガイドブック作成等就職支援のための具体的な取組方針を決定したほか、附属図書館との連携による就職関連情報の充実、後援会便りの活用等による情報提供機会の充実を図った。 以上のように、学生の就職支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 学生の就職支援について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 〔コメント〕 ○他大学に比してよく努力している。 ○学生の就職率をみても、十分な成果を上げている。</p>	A	

中期目標	中期計画	平成 22 年度 (2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
3 研究に関する目標 研究の活性化を目指し、外部資金の積極的な獲得と活用に努めるとともに、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。また、地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野として、個性的な研究活動や学内外と	<p>学生のクラブ及びサークル活動、ボランティア活動、自主的な研究、創作及び発表活動を奨励し、支援するための制度の充実を図る。</p> <p>(6) 経済的支援（小項目） 優秀な学生に対して授業料を減免するなどの特待生制度を導入する。</p> <p>(7) 留学生支援（小項目） 留学生の宿舎を確保するため、学生寮及び教員住宅の有効活用を図るとともに、独立行政法人日本学生支援機構の留学生借り上げ宿舎支援事業、財団法人日本国際教育支援協会の留学生住宅総合補償制度等の活用を進める。</p> <p>3 研究（大項目）</p>	<p>○特待生制度の検討</p> <p>○留学生の学生寮への優先入居者数の見直し</p> <p>○教員住宅への入居検討</p> <p>○機関補償制度導入の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>授業料減免制度の見直しに係る検討を行ったほか、他大学における特待生制度の導入状況に係る調査を実施した。</p> <p>以上のように、学生の経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>学生の経済的支援のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>留学生の宿舎を確保するため、留学生の学生寮への優先入居者数の見直しを行い、8名から10名へと2名増やしたほか、教員住宅への入居に係る検討を行った。また、他大学における機関補償制度の導入状況に係る調査を行った。</p> <p>以上のように、留学生の支援のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>留学生の支援のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>大項目評価</p> <p>地域産業の活性化につながる研究、地域課題に関する実践的な研究、平和をテーマとした研究等を重点研究分野としながら、学部叢書の発行、研究公開イベントへの出展、展覧会及び講演会の開催等、研究成果の普及及び還元^{そう}に全学を挙げて取り組んだ。</p> <p>こうした取組に加え、研究活動の活性化のため、全教員を対象に研修会を開催するなど、外部資金の積極的な獲得とその活用に努めるとともに、理事（常勤）によるワーキンググループを設置してサバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）の導入に向けた検討を行うなど、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>研究全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○特に、研究成果の市民への普及・還元について積極的に評価できる。</p> <p>○年度計画の大半は計画を上回って実施されており、特に計画の実施が遅滞しているものはない。</p> <p>○努力は認められるが、まだ十分でない点もある。今後一層の努力が望まれる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>の研究交流を積極的に展開し、その成果を教育に反映させるとともに、社会に還元する。</p>	<p>(1) 研究活動の活性化と成果の普及</p> <p>ア 研究活動の活性化（小項目）</p> <p>(ア) 教員の研究活動を奨励するため、サバティカル制度（教員が一定期間研究に専念する研修制度をいう。）を導入する。</p> <p>(イ) 科学研究費補助金等外部資金の申請率、採択率の向上を図る。</p> <p>(ウ) 外部資金を含めた研究費を弾力的かつ効果的に執行するための制度を導入する。</p> <p>(エ) 国際学部及び国際学研究科では、研究活動における学内外との連携を強化するため、客員研究員や共同研究者のための研究スペースを確保する。</p> <p>(オ) 情報科学部及び情報科学研究科では、社会へ発信する知的財産を効率的に創出するため、大学として取り組むべき基盤的研究及び時代のニーズに適合した先端的・革新的なプロジェクト研究に対し、研究費等を重点的に配分する。また、</p>	<p>○サバティカル制度導入の検討</p> <p>○外部資金獲得研修会の開催</p> <p>○弾力的・効果的な研究費執行制度の導入</p> <p>○学外研究者のための研究スペースの確保</p> <p>○プロジェクト研究、共同研究に対する教員研究費の重点配分</p>	<p>小項目評価</p> <p>○理事（常勤）3 名によるワーキンググループを設置して、サバティカル制度の導入に向けた検討を行った。</p> <p>○平成 22 年 10 月に外部資金獲得研修会を開催し、科学研究費補助金等外部資金の申請率及び採択率の向上に取り組んだ。</p> <p>【平成 22 年度外部資金申請率等実績：申請率 63.8% (67.0%)、採択率 44.8% (48.8%)、獲得金額 90,100 千円 (88,740 千円)、※（ ）内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>○教員研究費の弾力的・効果的な執行が可能となるよう、①平成 22～24 年度、平成 25～27 年度の各 3 年間で 1 単位とし、平成 22、23 年度、平成 25、26 年度の執行残を翌年度に使用できるようにする、②学生の学会参加費及び旅費に対する助成を拡大する、③立替払を可能とする、などの制度を導入した。</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、学外研究者のための執務スペースを確保するため、学部の研究室の利用状況を調査し、客員研究員用として 6 部屋を確保した。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、プロジェクト研究及び共同研究について、コンペ形式のプレゼンテーションにより選考し、教員研究費の重点配分を行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、科学研究費補助金、財団助成金などの外部資金を活用し、教員による展覧会活動、論文発表、講演会活動等の研究発表（64 件）、学生による展覧会発表（3 件）を行った。特にロンドンで開催した「光の肖像展」（被爆者の肖像画の展示会）は、被爆地広島の平和のメッセージを伝えることにも貢献し、マスコミにも大きく取り上げられた。</p> <p>○平和研究所では、プロジェクト研究等への学外研究者の積極的な参画を促進し、平成 22 年 4 月から 8 月までの期間に学外研究者 1 名の受入を行った。</p> <p>以上のように、公立大学法人制度の利点を生かした有用な制度の導</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○理事（常勤）3 名によるワーキンググループを設置して、サバティカル制度の導入に向けた検討を行った。</p> <p>○平成 22 年 10 月に外部資金獲得研修会を開催し、科学研究費補助金等外部資金の申請率及び採択率の向上に取り組んだ。</p> <p>【平成 22 年度外部資金申請率等実績：申請率 63.8% (67.0%)、採択率 44.8% (48.8%)、獲得金額 90,100 千円 (88,740 千円)、※（ ）内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>○教員研究費の弾力的・効果的な執行が可能となるよう、①平成 22～24 年度、平成 25～27 年度の各 3 年間で 1 単位とし、平成 22、23 年度、平成 25、26 年度の執行残を翌年度に使用できるようにする、②学生の学会参加費及び旅費に対する助成を拡大する、③立替払を可能とする、などの制度を導入した。</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、学外研究者のための執務スペースを確保するため、学部の研究室の利用状況を調査し、客員研究員用として 6 部屋を確保した。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、プロジェクト研究及び共同研究について、コンペ形式のプレゼンテーションにより選考し、教員研究費の重点配分を行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、科学研究費補助金、財団助成金などの外部資金を活用し、教員による展覧会活動、論文発表、講演会活動等の研究発表（64 件）、学生による展覧会発表（3 件）を行った。特にロンドンで開催した「光の肖像展」（被爆者の肖像画の展示会）は、被爆地広島の平和のメッセージを伝えることにも貢献し、マスコミにも大きく取り上げられた。</p> <p>○平和研究所では、プロジェクト研究等への学外研究者の積極的な参画を促進し、平成 22 年 4 月から 8 月までの期間に学外研究者 1 名の受入を行った。</p> <p>以上のように、公立大学法人制度の利点を生かした有用な制度の導</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>研究活動の活性化を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○意欲的に頑張っている若手教員に対し、研究費を多く配分してもらいたい。</p> <p>○競争的な研究費の割合を高くすべきである。</p> <p>○外部資金獲得の大幅増加、芸術学部のロンドンでも開催した「光の肖像」展の成功など、研究活動の活性化を高く評価したい。</p> <p>○研究費の弾力的な執行については積極的に評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>専攻を越えた共同研究や学外との共同研究に対し、教員研究費の一部を毎年度重点的に配分する。</p> <p>(カ) 芸術学部及び芸術学研究科では、展覧会の開催等の研究発表活動を積極的に推進する。</p> <p>(キ) 平和研究所では、研究活動の活性化を図るため、プロジェクト研究等への学外の研究者の積極的な参画を促進する。</p> <p>イ 研究成果の普及及び還元 (小項目)</p> <p>(ア) 国際学部及び国際学研究科では、研究成果普及の一環として平成 20 年度(2008 年度)に創刊した国際学部叢書を定期的に刊行する。また、学内競争的資金である特定研究費を活用した共同研究の促進を図り、その成果を国際学部叢書として刊行する。さらに、開学以来刊行しているジャーナル「広島国際研究」をホームページで公開し、幅広く研究成果を社会に還元する。</p> <p>(イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、研究公開イベントへの出展、特許出願、企業からの技術相談、共同研究等を通じて研究成果を社会に普及し、還元する。</p>	<p>○外部資金の獲得による研究発表活動の促進</p> <p>○学外研究者の受入促進</p> <p>○国際学部叢書の年次刊行</p> <p>○「広島国際研究」のホームページ公開</p> <p>○研究公開イベントへの出展</p> <p>○特許出願、共同研究を通じて研究成果の社会への普及・還元</p>	<p>入として優れたものと評価した教員研究費の弾力的・効果的な執行制度の導入を始めとして、研究活動の活性化を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○国際学部及び国際学研究科では、平成 22 年 7 月に国際学部教員及び平和研究所教員計 20 名の共著により国際学部叢書シリーズ第 3 巻「HIROSHIMA & PEACE (溪水社)」を発刊し、夏期集中講座「HIROSHIMA and PEACE」の教材として使用した。また、平成 22 年 11 月に第 16 巻を刊行した学部紀要「広島国際研究」の採択論文について、当該刊行に合わせて大学リポジトリサイト(リポジトリ：大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。)を通じて公開した。</p> <p>○情報科学部及び情報科学研究科では、JST(独立行政法人科学技術振興機構)新技術説明会、イノベーションジャパン等の研究公開イベントへの出展(出展件数 60 件)を行ったほか、JST、NICT(独立行政法人情報通信研究機構)、SCOPE(戦略的情報通信研究開発推進制度：総務省の情報通信技術(ICT)分野の研究開発における競争的研究資金制度)等国のプロジェクトなどの受託研究又は共同研究(研究件数 32 件)を実施し、研究成果に係る特許出願等の手続を行った。</p> <p>○芸術学部及び芸術学研究科では、平成 22 年 5 月から計 7 回にわたり芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会及び大学院研究成果の発表展示会を開催した(参加者数及び入場者数計 1,007 名)。</p> <p>○平和研究所では、所長を始めとした出版活動、平成 22 年 4 月及び平成 23 年 1 月に開催した連続市民講座、平成 22 年 7 月に開催した国際シンポジウム「核兵器廃絶に向けて私たちは何をすべきか」、</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>研究成果の普及及び還元について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○各分野において活発な活動が行われると同時に、機関リポジトリへの公開等、高く評価できる。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、芸術資料館において卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催等を行う。</p> <p>(エ) 平和研究所では、学術研究成果を大学教育に反映させるとともに、出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じ、その成果の社会への積極的な普及を図る。</p> <p>(オ) 附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリ（大学等の研究機関が研究成果を電子データとして集積し、保存し、公開するためのシステムをいう。）により公開する。</p>	<p>○芸術資料館における卒業制作優秀作品の展示会、大学院研究成果の発表展示会の開催</p> <p>○出版活動や公開講座、シンポジウム、講演会等を通じた学術研究成果の社会への積極的な普及</p> <p>○機関リポジトリで公開するための論文収集方策の検討</p>	<p>講演会等を通じ、学術研究成果の社会への積極的な普及を図った（開催回数 11 回、参加者数 1,239 名）。</p> <p>○附属図書館では、教員の研究成果、博士論文等を機関リポジトリで公開するための収集方策を検討した。</p> <p>以上のように、各学部、各研究科及び平和研究所と全学を挙げて計画に取り組んだことに加え、イベントへの出展件数、展示会等の開催回数及び参加者数実績も多く、研究成果の普及及び還元に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
	<p>(2) 研究体制の強化（小項目）</p> <p>ア 「産学公民」連携につながる研究を推進するため、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置する。</p> <p>イ 研究費を戦略的に配分できる仕組みを構築する。</p> <p>ウ 平和研究所では、被爆体験の思想化や原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制を強化する。</p> <p>エ 附属図書館では、研究における利便性を向上させる</p>	<p>○プロジェクト研究推進室の設置</p> <p>○戦略的に研究費を配分するための仕組みの構築</p> <p>○核兵器に関する諸問題に対する研究体制の強化</p> <p>○専門分野の電子ジャーナル等の選定・導入</p>	<p>小項目評価</p> <p>○戦略的な研究費の配分のため、①平成 22～24 年度、平成 25～27 年度の各 3 年間を 1 単位とし、平成 22、23 年度、平成 25、26 年度の執行残を翌年度に執行できるようにする、②平和研究所で実施してきたプロジェクト研究を特定研究と統合し、平和関連の研究を全学で公募・採択する、などの仕組みを構築した。</p> <p>○平成 22 年 4 月に「産学公民」連携につながる研究を推進するため、(財) 広島市産業振興センターの「先端科学技術研究所」の機能を移管し、社会連携センターにプロジェクト研究推進室を設置した。</p> <p>○平和研究所では、平成 22 年 4 月に「戦後広島・長崎両市の復興史」をテーマとする講師 1 名を採用したほか、論文等の発表を促進するなど、被爆体験の思想化、原爆投下による広島、長崎の被害の問題等核兵器に関する諸問題の研究を重点研究領域とした研究体制の強化を図った。</p> <p>○附属図書館では、研究における利便性を向上させるため、洋雑誌（IEEE Internet Computing 等 70 誌）を中心に電子ジャーナルに置き換えて、購読誌数を増やした。</p>	a	<p>【評価理由】</p> <p>研究体制の強化について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○研究費の戦略的な配分の仕組みは、公立大学法人制度の利点を生かした有用な制度であり、研究体制の強化に資する重要な取組である。</p> <p>○プロジェクト研究推進室の設置は、市政貢献の推進と本学の研究機能の強化に資するものであり、(財) 広島市産業振興センターが有し</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度 (2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価		
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号	
	ため、専門分野の電子ジャーナルやデータベースの充実を図るとともに、データベース横断検索ソフト等を計画的に導入する。			上記の取組のうち、研究費の戦略的な配分の仕組みは、公立大学法人制度の利点を生かした有用な制度であり、研究体制の強化に資する重要な取組であること、また、プロジェクト研究推進室の設置は、市政貢献の推進と本学の研究機能の強化に資するものであり、(財)広島市産業振興センターが有している市内企業等とのネットワークを生かした本学と産業界との連携の更なる拡大が期待できることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。		ている市内企業等とのネットワークを生かした本学と産業界との連携の更なる拡大が期待できる。 ○よくやっているが、これら措置の成果は今後に待たれる面がある。 ○足りない部分を補うための努力をしているとは思いますが、まだ十分ではない。今後一層の努力を期待する。	
4 社会貢献に関する目標 教育研究成果を社会に還元するため、社会連携センターを中心的な窓口として、学外研究機関、企業、NPO、地域コミュニティ等との交流及び連携を積極的に推進する。また、広島市の「知」の拠点としての地位を確立するため、提言、施策立案、技術供与等を通じて、地域行政課題の解決及び都市機能の強化に貢献する。さらに、広く市民に生涯学習の場を提供するため、公開講座の充実等に取り組むとともに、広島市職員、小中高等学校教員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。	4 社会貢献 (大項目)		大項目評価 中期計画に掲げる重点取組項目である「社会連携センターを中心とした「産学公民」連携の推進」及び「広島市及び関係機関と連携した平和の推進、文化の振興及び地域経済の活性化等の取組」を中心に、計画に掲げる取組を着実に実施した。 特に、多様な公開講座の開催や市民講座への講師派遣等を通じて多くの市民に学習機会を提供するとともに、学外研究機関、企業等との交流及び連携の積極的な推進により、受託研究・共同研究の件数及び研究費が大幅に増加するなど、十分な成果が得られた。 また、広島市の附属機関等の委員への就任、広島市からの受託研究の実施、学生と地域住民による芸術活動の実施、広島市の平和関連施策への協力、地域産業界への技術相談支援等を通じ、行政課題の解決並びに広島市の平和の推進、産業振興及び芸術振興に大きく貢献した。 以上のように、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。	a	〔評価理由〕 社会貢献全般について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A	

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>(1) 生涯学習ニーズへの対応 (小項目)</p> <p>ア 市民の生涯学習ニーズに対応するため、公開講座の開催、市民講座への講師派遣等に積極的に取り組む。また、リカレント教育（社会人が大学院等で高度な知識、技能を習得するための教育をいう。）を推進するため、社会人講座等の充実を図る。</p> <p>イ 休日、夜間に市民向けの講座等を開催するため、平和研究所等の施設を活用し、市中心部にサテライトキャンパスを設置する。</p>	<p>○公開講座の開催、市民講座への講師派遣</p> <p>○本学実施の市民向け講座の現状把握、課題分析</p>	<p>小項目評価</p> <p>市民の生涯学習ニーズに対応するため、以下の実績のとおり公開講座を開催するとともに、市民講座への講師派遣を行ったほか、本学主催の全公開講座において受講者を対象にアンケート調査を実施し、各講座の収支状況や課題の分析と受講者のニーズに合わせた企画の検討を行った。</p> <p>①国際学部公開講座「多文化共生って何ですか？」 （平成 22 年 11 月開催：参加者数約 50 名）</p> <p>②情報科学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習「パソコン活用術」（平成 22 年 9 月開催：参加者数 30 名） ・講演会（平成 22 年 11 月開催：参加者数 33 名） ・連続講義（平成 22 年 12 月開催：参加者数 46 名） ・高校生の情報科学自由研究（平成 22 年 7 月、8 月開催：参加者数 27 名） <p>③芸術学部公開講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般向け（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：平成 22 年 7 月～9 月開催：参加者数 110 名） ・サマースクール（日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸：平成 22 年 7 月、8 月開催：参加者数 66 名） ・社会人向け工芸・版画技能講座（金工、染織、版画：平成 22 年 4 月～平成 23 年 1 月開催：参加者数 13 名） <p>④シティカレッジへの講座提供 （現代アジアの変化と連続性：平成 22 年 11 月開催：参加者数約 150 名）</p> <p>⑤英語 e ラーニング講座 （平成 22 年 8 月～10 月実施：参加者数 62 名、平成 22 年 10 月～平成 23 年 1 月実施：参加者数 57 名）</p> <p>以上のように、開催回数実績及び参加者数実績ともに多く、市民の生涯学習ニーズへの対応に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>生涯学習ニーズへの対応について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○多種多様な講座が開かれており、十分評価できる。</p>	A
	<p>(2) 「産学公民」連携の推進 ア 地域産業界との連携（小項目）</p> <p>(ア) 社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等</p>	<p>○受託研究・共同研究の推進</p> <p>○受託研究・共同研究の</p>	<p>小項目評価</p> <p>社会連携センターを中心的な窓口として、企業等からの受託研究及び企業等との共同研究に積極的に取り組んだ。また、受託研究及び共同研究を実施している教員の意見等を聴取して、契約及び経費支出手続の現状を把握し、受託研究規程又は契約書に係る課題の整理・見直</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>地域産業界との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p>	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	との共同研究に積極的に取り組む。 (イ) 先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を、技術相談や技術支援等を通じて企業や地方自治体等に提供し、高等教育研究機関としてのリーダーシップを発揮する。	現状把握、課題分析 ○技術相談支援等の推進	し案の検討を行った。さらに、総務省「西日本地域における ICT を活用した協働教育の推進に関する調査研究に係る請負」事業に係る協議会への参画等により、先進的な ICT システムの構築により蓄積されたノウハウ等を企業や地方自治体等に提供した。 【平成 22 年度受託研究・共同研究実績：() 内数値は平成 21 年度実績】 ・受託研究：①件数：21 件 (14 件)、②研究費計：101,037 千円 (51,612 千円) ・共同研究：①件数：16 件 (4 件)、②研究費計：44,681 千円 (0 千円) 以上のように、社会連携センターを中心的な窓口として企業等との調整を行うとともに、契約事務の簡素化等公立大学法人制度の利点を生かして取り組んだ結果、受託研究・共同研究の件数及び研究費が大幅に増加したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。		【コメント】 ○受託研究・共同研究の大幅な増加、契約・経費の実情把握、課題の整理・見直し等行ったこと、ICT システムのノウハウの企業や自治体への提供などいずれも高く評価できるものである。	
	<u>イ 国、地方自治体等との連携 (小項目)</u> (ア) 附属機関等の委員への就任、講師の派遣、行政課題の解決や人材育成等のための共同事業の実施等により、国、地方自治体、特に広島市との連携強化に取り組む。 (イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。 (ウ) 財団法人広島平和文化センターと連携し、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等を行うなど、平和の推進に貢	○附属機関等の委員への就任、講師派遣 ○行政課題の解決、人材育成等のための共同事業の実施 ○広島市職員等を対象とした研修制度の検討 ○「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等への学術支援等	<u>小項目評価</u> ○以下の実績のとおり、附属機関等の委員への就任及び講師派遣を行った。 【平成 22 年度講師派遣等実績：() 内数値は平成 21 年度実績】 ①広島市等の審議会委員等への就任【123 機関 (126 機関)】 ②講演会への講師派遣【41 件 (29 件)】 ○行政課題の解決のため、広島市からの受託研究を実施したほか、人材育成等のため、広島市職員を協力研究員として受け入れるなどの取組を行った。また、平成 22 年 9 月に安佐南区役所との地域連携協定を締結し、区役所、アストラムライン大塚駅周辺における芸術作品の展示を行った。 ○広島市職員等 (大学事務職員を含む。) の科目等履修生としての単位取得を可能とする制度や、教員との共同研究等の制度の検討を行った。 ○ICT 関連講演会等へ講師派遣を行った (13 件) ほか、地域の自治体及び産業界への技術相談支援並びにイベントへの ICT 活用支援を行った (109 件)。 ○平成 22 年 5 月以降 4 回にわたり「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催により、一般市民も参加できる公開の講演会及びギャラリートークを開催した。また、芸術学部及び芸術学研究科では、平成 23 年 3	a	【評価理由】 国、地方自治体等との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 【コメント】 ○平和研究所を含め、審議会等の委員就任、講演会への講師派遣など活発に行われていることについて十分評価できる。	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	献する。 (エ) 財団法人広島市文化財団と連携し、広島市現代美術館との共同事業を行うなど、広島市の芸術振興に貢献する。 (オ) 財団法人広島市産業振興センターと連携し、ICTをはじめとした様々な分野での技術支援を行い、広島市の産業振興に貢献する。 (カ) 地域社会等と連携し、地域展開型の芸術プロジェクトを積極的に推進する。	○地域美術館との連携 ○ICT 関連機関への委員就任 ○ICT 関連講演会への講師派遣、共同事業の実施 ○地域自治体や産業界への技術相談支援、イベントへの ICT 活用技術支援 ○地域展開型の芸術プロジェクトの実施	月に広島市現代美術館において第 14 回芸術学部卒業・修了作品展を開催したほか、公民館との連携による公開講座、安佐南区大塚地区の竹林を舞台に学生と地域住民が芸術活動を実施する「大塚かぐや姫プロジェクト」などの地域社会等との連携による地域展開型の芸術プロジェクトを実施した。 ○平和研究所では、以下のとおり、「広島・長崎講座」や市民向け講座への協力、平和記念資料館の展示等の学術支援等を行った。 【平成 22 年度学術支援等実績：() 内数値は平成 21 年度実績】 ①審議機関等の委員等への就任【3 機関 (5 機関)】 ②「広島・長崎講座」への協力【6 講座、21 回 (4 講座、18 回)】 ③市民向け講座への協力【11 回 (1 回)】 以上のように、広島市の「知」の拠点として、特に広島市と連携し、施策提言及び立案、技術供与等を通じた行政課題の解決等に積極的に取り組み、広島市の平和の推進、産業振興及び芸術振興に大きく貢献したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。			
	ウ 学術機関及び研究機関との連携（小項目） (ア) 国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究やプロジェクト研究等への参画を推進するとともに、研究交流を通じて、海外学術交流協定大学との連携強化に取り組む。また、関係機関と連携し、公開講座やインターンシップ等の充実を図る。 (イ) 情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム	○共同研究、プロジェクト研究参加教員、公開講座実施等の現状把握 ○情報医工学プログラムの実施	小項目評価 ○国際学部及び国際学研究科では、国内外の研究者との共同研究及びプロジェクト研究の実施状況並びに公開講座等の開催状況に係る調査を実施した。 ○情報科学部及び情報科学研究科では、広島大学、広島工業大学との連携プログラム「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」（平成 21 年度(2009 年度)文部科学省採択事業）を実施した。 ○広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組み、平成 22 年 5 月以降 4 回にわたり「いちだい知のトライアスロン」関連イベントとして、ひろしま美術館又は広島市現代美術館との共催により、一般市民も参加できる公開の講演会及びギャラリートークを開催した。また、芸術学部及び芸術学研究科では、平成 23 年 3 月に広島市現代美術館において第 14 回芸術学部卒業・修了作品展を開催した。 ○平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究への学外研究者の積極的な参画を促進した。 以上のように、各学部、各研究科及び平和研究所と全学を挙げて計	a	【評価理由】 学術機関及び研究機関との連携について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。 【コメント】 ○地元大学との連携により、学際的プログラムが実施されたことは高く評価できる。 ○平和研究所は、国内外の大学・研究機関との連携について、具体的な協力連携関係を認めたい。 ○他大学ではもっと緊密な連携プロジェクトが多く進んでいる。この程度でなく、もっと努力してもらいた	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>構築と人材育成」(平成 21 年度(2009 年度)文部科学省採択事業)を推進し、情報科学、医学、工学の知識を有した人材を育成する。</p> <p>(ウ) 芸術学部及び芸術学研究科では、卒業修了制作展の開催等を通じ、広島市現代美術館等の地域の美術館との連携強化に取り組む。</p> <p>(エ) 平和研究所では、国内外の大学及び研究機関との連携を一層強化するため、共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流を積極的に推進する。</p> <p>エ 小中高等学校等との連携(小項目)</p> <p>(ア) 市内の小中高等学校に対する学習支援、教員のリフレッシュ教育(大学、大学院等の高等教育機関が、職業人に職業上の知識、技術を新たに修得させることを目的とした事業をいう。)等に取り組む。</p> <p>(イ) 広島市職員、小中高等学校教員等を大学院生、研究員等として受け入れるなど、広島市職員等の研修機関としての役割を積極的に果たす。(再掲)</p> <p>(3) 社会連携センターの機能の充実</p>	<p>○広島市現代美術館における卒業修了制作展の開催</p> <p>○共同研究の実施やプロジェクト研究等への参画を通じた研究交流の推進</p>	<p>画に取り組んだことに加え、情報科学部及び情報科学研究科において実施した「医療・情報・工学連携による学部・大学院連結型情報医工学プログラム構築と人材育成」は、9 科目で延べ 130 名の学生が履修していること、病院実習及びインターンシップの試行から大学院課程のプログラム策定までを 1 年先行して実施したこと、医療・情報・工学の異分野の融合により新しい研究分野の発掘と研究の発展が期待されることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>		<p>い。</p> <p>○医療・情報・工学の異分野の融合により新しい研究分野の発掘と研究の発展が期待される</p>	
		<p>○市内の小中高等学校に対する学習支援の実施</p> <p>○広島市職員等を対象とした研修制度の検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>小学生に高度で発展的な情報科学の先端に直接触れる機会を提供するプログラム「未来の科学者養成講座」を開催したほか、中高校生を対象にした日本画、油絵、彫刻、デザイン工芸に係る講座を開催するなど、市内の小中高等学校に対する学習支援を行った。また、広島市職員、小中高等学校教員等(大学事務職員を含む。)の科目等履修生としての単位取得を可能とする制度及び教員との共同研究等の制度の検討を行った。</p> <p>以上のように、独立行政法人科学技術振興機構に選定された先駆的な事業として、優れた取組と評価した「未来の科学者養成講座」の開催を始めとして、小中高等学校との連携を推進するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>小中高等学校との連携を推進するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○「未来の科学者養成講座」の開催は、先駆的意義を持つものと評価できる。その他小中高等学校との連携も評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>ア 社会連携センターの体制整備 (小項目) 多様化する「産学公民」連携のニーズに迅速に対応し、効果的に事業を実施するための組織体制を整備する。</p>	○組織体制の整備	<p>小項目評価 平成 22 年 4 月、社会連携センターに連携推進室を設置するとともに、専任の事務職員 1 名を配置した。 以上のように、社会連携センターの体制を整備するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕 社会連携センターの体制を整備するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○組織体制が整ったことについて評価する。</p>	B
	<p>イ 学部及び研究科の「産学公民」連携や社会貢献の取組に対する支援 (小項目) (ア) 展示会への出展やメールマガジンの配信等様々な広報活動を通じて、研究成果や知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行う。 (イ) 「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催する。 (ウ) 学外の関係機関等と連携した教育研究活動等を支援する。 (エ) 地域住民や行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援する。</p>	<p>○展示会への出展等の広報活動、技術相談の実施 ○セミナー、フォーラム等の開催 ○セミナー、フォーラム等の現状把握、課題分析 ○学外研究機関との教育研究活動等の支援 ○社会連携プロジェクトの公募、取組支援</p>	<p>小項目評価 ○以下の実績のとおり、展示会への出展等の広報活動、技術相談の実施等を通じて、研究成果、知的財産等の内容を積極的に発信するとともに、地域住民、産業界、行政等のニーズとのマッチングを行った。 【平成 22 年度展示会出展等実績】 ①平成 22 年 7 月 1 日：インテレクチュアルカフェ開催（於：広島） ②平成 22 年 9 月 16 日：ビジネスマッチングフェア 2010 出展（於：広島） ③平成 22 年 9 月 29 日～10 月 1 日：イノベーションジャパン 2010 出展（於：東京） ④平成 22 年 11 月 25 日：西風新都プロモーションセミナー出展（於：東京） ⑤産学連携コーディネーター又は知的財産マネージャーによる技術相談の実施（随時：平成 22 年度相談件数 48 件（平成 21 年度 60 件）） ○以下の実績のとおり、「産学公民」連携推進のためのセミナーや大学と地域住民、産業界、行政等との交流促進を目的としたフォーラム等を開催したほか、当該セミナー等において実施したアンケート調査による現状把握及び課題分析を行った。 【平成 22 年度セミナー・フォーラム開催実績：（ ）内数値は平成 21 年度実績】 ①平成 22 年 11 月 29 日：広島市役所での研究紹介展開催 ＜来場者数：210 人（235 人）＞ ②平成 23 年 1 月 21 日：リエゾンフェスタの開催 ＜来場者数：約 130 人、50 機関（約 150 人、60 機関）＞</p>	b	<p>〔評価理由〕 「産学公民」連携の推進等のための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○地域・産業界のニーズとのマッチングに力を入れた点は評価できる。 ○社会連携プロジェクト公募件数の増加など前進が見られる点は評価できる。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
			<p>○「ひろしま医工連携・先進医療イノベーション拠点事業（代表：広島大学）」の研究設備の整備を支援するなど、学外研究機関との教育研究活動等の支援を行った。</p> <p>○地域住民、行政等が抱える課題の解決への貢献を目的とした「社会連携プロジェクト」を学内で公募し、その取組を支援した。</p> <p>【平成 22 年度「社会連携プロジェクト」実績：（ ）内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>①応募件数：13 件（8 件）、応募総額：9,443 千円（6,388 千円）</p> <p>②採択件数：10 件（5 件）、採択総額：5,258 千円（3,000 千円）</p> <p>以上のように、「産学公民」連携の推進等のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>			
	<p>ウ 研究成果、学内資源等の活用（小項目）</p> <p>知的財産の創出に取り組むとともに、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、社会連携の基本方針を定めた「社会連携ポリシー」を策定する。</p>	<p>○知的財産の創出の推進</p> <p>○「社会連携ポリシー」の策定に向けた検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>以下の実績のとおり、知的財産の創出に取り組むとともに、知的財産に係る手続の円滑化を図るため、平成 22 年 10 月に知的財産に係る取扱要領を策定した。また、学内資源等を適切に管理し、最大限活用するため、他大学における「社会連携ポリシー」の策定状況に係る調査を行った。</p> <p>【平成 22 年度特許出願等実績：（ ）内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>特許出願：1 件（2 件）、審査請求：4 件（3 件）、特許登録：5 件（0 件）</p> <p>以上のように、研究成果、学内資源等を活用するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>研究成果、学内資源等を活用するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○「知的財産に係る取扱要領」策定については評価できる。</p> <p>○特許登録が 5 件と実績を上げたことについては評価できる。</p>	B
	<p>エ 学生の育成（小項目）</p> <p>「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施し、学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせる。</p>	<p>○「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業の実施</p>	<p>小項目評価</p> <p>学生に自主性や問題解決能力を身に付けさせるため、以下の実績のとおり、「学生による社会貢献型自主プロジェクト」事業を実施した。</p> <p>【平成 22 年度事業実績：（ ）内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>①応募件数：6 件（10 件）、応募総額：532 千円（879 千円）</p> <p>②採択件数：5 件（8 件）、採択総額：433 千円（685 千円）</p> <p>以上のように、学生を育成するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>学生を育成するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○前年度より件数、額等が下回るものの、着実に実施されていることを評価する。</p> <p>○もう少し多面的な社会貢献の取組があってもよいのではないか。</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
5 国際交流に関する目標 海外学術交流協定大学との人材交流を積極的に展開するとともに、留学生への支援体制の充実を図る。	5 国際交流（大項目）		大項目評価 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開に向けた調査の実施、留学生の進学・就職相談等の支援体制の充実のための専任スタッフの配置等、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 国際交流全般に関する取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○厳密には計画どおりではないが、より抜本的対策を講じており、学生のニーズについても時期を遅らせたが計画に着実に組み込まれており、留学生支援も着実に進められている。	B
	(1) 海外学術交流協定大学との人材交流の積極的な展開（小項目） ア 各学部の特色を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組を進め、受入学生数を増やす。 イ 学生及び教員のニーズを探りながら、魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に取り組み、派遣学生数を増やす。	○受入環境等に係る留学生の要望の調査 ○交流先となる海外大学に関する学生・教員への希望調査 ○教員の海外大学との交流状況調査	小項目評価 ○各学部の特色を十分に生かし、海外学術交流協定大学の学生にとって魅力ある受入校となるための取組として、計画では受入環境等に係る留学生の要望の調査を実施することにしてはいたが、より効果的に実施する観点から、平成 23 年度において「留学生の受入を促進するための研究」（学長指定研究）を実施し、当該研究の一環として調査を行うことにした。 ○魅力ある海外の大学との新たな学術交流協定の締結に向けた取組として、平成 22 年 10 月に教員に対し海外大学との交流状況について調査を行ったものの、交流先となる海外大学に関する学生又は教員への希望調査については、平成 23 年 4 月に 1 年生全員に対して実施することにした。 ○中国の協定校（西南大学、北京国際関係学院）、韓国の協定校（梨花女子大学校、西京大学校）を国際学部長及び国際学部教員が訪問し、新たな交流プログラムの実施に係る協議を行った。 以上のように、より効果的なものとするため実施時期を遅らせた取組はあるものの、海外学術交流協定大学との人材交流を積極的に展開するための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	〔評価理由〕 海外学術交流協定大学との人材交流を積極的に展開するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 〔コメント〕 ○受入学生拡大策の検討については、より根本的方策として、研究実施されたということであり、いまだ途上にあるものと思われるが、その成果が期待できる。 ○学生のニーズについての調査は、翌年度実施であるが、計画に組み込まれた点を評価する。	B
	(2) 留学生への支援体制の充実（小項目） ア 国際的に魅力ある留学生受入れプログラムを整備	○利用可能な奨学金制度等の調査	小項目評価 ○日本学生支援機構等の留学生のための奨学金制度を調査した。その結果、対象となる留学期間（3 か月～1 年以内等）のものが大半であったため、本学の既存プログラムに合わないことが判明し	b	〔評価理由〕 留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められ	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
	<p>し、独立行政法人日本学生支援機構の留学生交流支援制度等の奨学金を申請する。</p> <p>イ 国際交流に関する専任スタッフの配置等により、留学生の進学、就職相談等の留学生支援体制の充実を図る。</p> <p>ウ 留学生の様々なニーズに応じた助言やサポートを行うため、アドバイザー制度等を整備する。</p> <p>エ 海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、海外留学希望者に情報を提供する。</p>	<p>○留学生支援専門員の配置</p> <p>○留学生アドバイザー制度等の検討</p> <p>○海外留学情報のデータベース作成</p>	<p>た。</p> <p>○平成 22 年 4 月に国際交流に関する専任スタッフとして事務局に留学生支援専門員を新たに配置した。当該スタッフの配置により、留学生の進学・就職相談等の留学生支援体制が充実した。</p> <p>○日本人学生による留学生への支援制度についての他大学調査や検討を行うとともに、平成 23 年度から実施する「留学生の受入を促進するための研究」(学長指定研究)において試験的に留学生のためのアドバイザー(学生)を配置し、本学として望ましいアドバイザー制度の在り方を検討することにした。</p> <p>○語学センターでは、海外に留学した学生の体験談等をデータベース化し、当該センターのオリジナルウェブサイトに掲載した。</p> <p>以上のように、留学生への支援体制の充実を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>ることから、「B」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○支援制度については、着実に進められていると感じられる。</p>	
第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標	<p>第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置(大項目)</p>		<p>大項目評価</p> <p>中期計画に掲げる重点取組項目である「人事及び予算等に係る全学的・中長期的視点からの運用」を中心に、計画に掲げる取組を着実に実施した。</p> <p>特に、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度である特任教員の任用制度、裁量労働制の導入、兼職・兼業に係る許可基準の作成は、本学の教育研究、社会貢献等の活性化に大きく貢献した。</p> <p>また、教員の採用、昇任等を人事委員会において全学的・中長期的視点から調整する仕組みを構築し、これまで学部主導で行ってきた人事制度を大幅に変更した。</p> <p>さらに、理事長、理事(常勤)、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みである運営調整会議の設置を始めとした取組を行い、中期計画に掲げる「機動的な運営体制の構築」を実現した。</p> <p>以上のように、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>業務運営の改善及び効率化全般に関し優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○計画初年度において、数々の新しい施策が投入され、総じて計画を上回る取組が実施されている。</p>	A
1 運営体制に関する目標 (1) 機動的な運営体制の構築 理事長(学長)が	<p>1 運営体制(小項目)</p> <p>(1) 機動的な運営体制の構築 ア 理事長を補佐する理事の役割分担を明確にするとと</p>	<p>○役員執行体制、事務局体制の整備</p>	<p>小項目評価</p> <p><機動的な運営体制の構築></p> <p>○平成 22 年 4 月に理事(常勤)3 名について役割分担を明確化(①企画・戦略担当、②教育・研究担当、③総務・危機管理担当)したほか、重点施策における機能強化を図るため、副理事(①広報担当、</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>運営体制について特に優れた取組を実施したものと認められることから、「S」と評価した。</p>	S

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>リーダーシップを発揮できる意思決定システムの構築等により、全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的な大学運営を行う。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 積極的な広報や大学運営への学外有識者の参画により、社会に開かれた大学づくりを推進する。</p>	<p>もに、理事長及び理事を支援する事務組織体制を整備する。</p> <p>イ 理事長、理事、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みを構築する。</p> <p>ウ 全学的かつ中長期的視点から戦略的かつ機動的に人員配置、予算配分等を行う仕組みを構築する。</p> <p>エ 教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みを構築する。</p> <p>(2) 社会に開かれた大学づくりの推進 ア 積極的な広報 (ア) ホームページの内容の充実を図るとともに、管理及び運用のためのルールを整備する。(再掲)</p> <p>(イ) 全学的視点から積極的な広報を行うための体制を整備する。</p> <p>(ウ) 大学の「年報」を作成する。</p> <p>(エ) 刊行物のデータベースを構築し、ホームページ等で公開する。</p> <p>イ 大学運営への学外有識者</p>	<p>○運営調整会議の設置</p> <p>○戦略的・機動的な予算配分等のための仕組みの構築</p> <p>○教職員が一体となって大学運営に参画するための仕組みの検討</p> <p>○全学・各学部のホームページの整備・改善</p> <p>○モバイルサイト用、CMSサーバの構築・運用開始</p> <p>○全学ホームページと各学部のホームページとの連携等を含めた管理・運用ルールの整備</p> <p>○全学的な広報体制の整備</p> <p>○「年報」の編集方針に係る検討</p> <p>○対象刊行物の調査、手法等の検討</p> <p>○大学運営への学外有識</p>	<p>②入学試験担当、③社会連携担当)を設置するとともに、法人運営の総合調整を所掌する企画室を設置するなど事務局組織体制を整備した。</p> <p>○理事長、理事(常勤)、学部長等が定期的に協議し、幅広く意見を収集するための仕組みとして、平成 22 年 4 月に理事長、理事(常勤)、学部長及び平和研究所長で構成する運営調整会議を設置し、定期的(月 2 回)に開催した。</p> <p>○予算編成方針を策定した上で各学部の要望を理事(常勤)で調整しながら予算を編成するなど、戦略的・機動的な予算編成を行うとともに、人事委員会において、教員の採用、昇任等を全学的・中長期的視点から調整する仕組みを構築した。</p> <p>○教職員が一体となって企画・立案・実施に参画する大学運営の仕組みとして、平成 22 年 4 月に全学委員会を設置して全学的な課題等に取り組んだほか、教職員によるワーキンググループを設置して特定の課題等に取り組むことにした。</p> <p><社会に開かれた大学づくりの推進></p> <p>○平成 22 年 10 月に全学のウェブサイトを全面的にリニューアルしたほか、既存の情報科学部のウェブサイトに加え、平成 22 年 7 月には国際学部のウェブサイトを開設するとともに、平成 23 年 4 月の平和研究所のウェブサイト開設に向けた作業を行った。また、平成 22 年 10 月に CMS(コンテンツ管理システム)を使用し、ウェブサイト再構築したほか、携帯電話からコンテンツを快適に閲覧するためのモバイルサイト用ページを作成するシステムを導入した。さらに、平成 22 年 10 月に「広島市立大学ウェブサイト運用管理要綱」等を制定し、企画・広報委員会委員長を全学ウェブサイトの管理者とするとともに、各学部ウェブサイトにおける管理責任者を設置した。</p> <p>○平成 22 年 4 月に企画・戦略担当の理事、広報担当の副理事及び事務局企画室を設置し、事務局企画室への広報関係情報の一元化、学外への積極的かつ効果的な情報発信(平成 22 年度市政記者クラブへの情報提供件数:月平均 5.5 件、本学関連情報のマスコミでの紹介件数:月平均約 28 件、平成 22 年度全学ウェブサイト「お知らせ」掲載件数:平成 21 年度 195 件→平成 22 年度 274 件)を行ったほか、9 月に大学の情報発信拠点として、広島地下街シャレオにアンテナショップ(ichidai ichi)を開設(12 月まで開設)した。</p> <p>○「年報」の編集方針に係る検討を行い、大学評価(認証評価)への</p>		<p>【コメント】</p> <p>○機動的な運営体制の早期再構築を始め、学外有識者の登用、監査の厳正実施など、計画を上回るスピードで運営体制全般の改革が実施されている。</p> <p>○懸案であった運営システムを全面的に見直し、適切な形に改善している。</p> <p>○運営体制について、役割分担を明確にし、幅広く意見を収集しながら、定期的な協議の場を設けた点については高く評価できる。</p> <p>○学外への情報発信は、十分であると思われる。</p> <p>○ホームページのデザインは、少し工夫が必要と感じる。</p> <p>○監査体制を整備した点についても評価できる。</p>	

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等</p> <p>公立大学法人の監査制度を活用し、法人業務の適正処理の確保及び大学運営の改善に努める。</p>	<p>の参画理事や経営協議会の委員に学外有識者を積極的に登用する。</p> <p>(3) 監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等</p> <p>ア 会計監査人の協力を得て、監事を中心とした実効性のある監査体制を整備する。</p> <p>イ 監査結果を大学運営の改善に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>者の登用</p> <p>○監査計画の作成、監査の実施</p>	<p>対応及び事務引継に活用できる内容にすることを決定した。</p> <p>○刊行物のデータベース構築に向け、大学が発行する刊行物、チラシ等を収集したほか、印刷発注データも参考にして対象刊行物、データベース項目を検討した。</p> <p>○平成 22 年 4 月に理事 5 名のうち 2 名、経営協議会委員 8 名のうち 4 名の学外有識者を登用した。</p> <p><監査制度の活用による法人業務の適正処理の確保等></p> <p>○監事監査の事務体制を整備し、監査法人と会計監査契約を締結するとともに、監査計画を作成して事前調査、期中監査及び期末監査を受検した。</p> <p>以上のように、理事長（学長）のリーダーシップの下、中期計画に掲げる「機動的な運営体制の構築」を早期に実現したことから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>			
			<p>小項目評価</p> <p>○平成 22 年 4 月に特任教員等の任用制度及び裁量労働制を導入するとともに、6 月に兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成するなど、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度を構築した。</p> <p>○教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度の構築に向け、以下の取組を行った。</p> <p>①評価の前提となる 4 つの視点（教育、大学運営、研究、社会貢献）を決定し、各教員に対し周知を図った。</p> <p>②教員活動を把握し、評価するための項目を設定し、教員各人が教員システム（大学情報サービスシステム）に教員活動情報の入力を行った。</p> <p>③設定した評価項目を基に、評価基準、運用の在り方等について検討を行った。</p> <p>④教員評価の結果を人事等に反映させるための仕組みとして、平成 23 年 3 月に教員表彰制度を創設するとともに、当該表彰（被表彰者 22 名）を実施した。</p> <p>上記の取組のうち、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度の構築は、本学の教育研究、社会貢献等の活性化に大きく貢献するものであることから、優れた取組を実施したものとして、「a」と評価した。</p>	a	<p>〔評価理由〕</p> <p>人事について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>〔コメント〕</p> <p>○法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度の構築を着実に行った点は評価できる。</p>	A
<p>2 人事に関する目標</p> <p>広島市立大学の教育研究、社会貢献等を活性化させるため、公立大学法人制度の利点を生かした柔軟な人事制度や多面的な教員評価制度を構築する。</p>	<p>2 人事（小項目）</p> <p>(1) 柔軟な人事制度の構築</p> <p>ア 特任教員等の任用制度を導入する。</p> <p>イ 裁量労働制を導入する。</p> <p>ウ 兼職・兼業に係る許可基準を新たに作成する。</p> <p>(2) 教員評価制度の構築</p> <p>ア 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。</p> <p>イ 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。</p>	<p>○特任教員等の任用制度の導入</p> <p>○裁量労働制の導入</p> <p>○兼職・兼業に係る許可基準の作成</p> <p>○評価項目の設定</p> <p>○評価基準等の検討</p> <p>○評価結果を人事等に反映させるための仕組みの検討</p>	<p>小項目評価</p> <p>○事務処理の内容及び方法について、平成 22 年度は法人化初年度のため点検を見送ったが、平成 22 年 12 月に開催した SD（Staff</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>事務処理の改善等を図るための取組を計画どおり着実に</p>	B
<p>3 事務処理に関する目標</p> <p>業務内容の変化に</p>	<p>3 事務処理（小項目）</p> <p>(1) 事務処理の内容及び方法について、定期的な点検を</p>	<p>○事務処理の内容及び方法に係る点検方法、点</p>				

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
第 4 財務内容の改善に関する目標	<p>柔軟に対応し、定期的な業務改善や事務組織の見直し等に取り組むことにより、効果的かつ効率的な事務処理に努める。</p> <p>実施し、必要に応じて改善を行う。</p> <p>(2) 業務内容の変化に柔軟に対応し、効果的かつ効率的な事務処理ができるよう、事務組織の定期的な見直しを行う。</p> <p>(3) 全学的な課題等について組織横断的に取り組むための体制を整備する。</p> <p>第 4 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置(大項目)</p>	<p>検時期等の検討</p> <p>○組織横断的な執行体制の整備</p>	<p>Development : 事務職員等の資質向上を図るための組織的取組をいう。) 研修会において旅費支給事務の在り方に係る検討を行ったほか、平成 23 年度から上記研修会を活用した点検活動に加えて、毎年点検テーマを設定し、各部署が点検活動に取り組む方式を導入することを決定した。</p> <p>○事務処理の効率化を図るため、①物品購入等における立替払の創設、②保守管理の委託料等の定期的な支払事務の簡素化を行った。</p> <p>○平成 22 年 4 月に全学的な課題等について組織横断的に取り組むため、法人運営の総合調整を所掌する事務局企画室を設置した。</p> <p>以上のように、事務処理の改善等を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>		<p>実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○企画室設置は評価できる。</p> <p>○点検テーマを設定する際には、課題を鮮明にすべきである。</p>	
			<p>大項目評価</p> <p>外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制の強化、学内施設に係る貸付料の設定及び貸付の実施、人員配置の適正化に向けた非常勤講師の見直しの検討、光熱水費等の節減等、自己収入の増加及び管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>財務内容の改善全般の取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○外部資金の額・件数の増加、経費節減の取組が十分に行われている。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>○外部資金の積極的な獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化した。</p> <p>【平成 22 年度科学研究費補助金等実績：() 内数値は平成 21 年度実績】</p> <p>①科学研究費補助金 申請件数：127 件 (134 件)、申請額：209,807 千円 (284,760 千円) 獲得件数：62 件 (60 件)、獲得金額：90,100 千円 (88,740 千円)</p> <p>②受託研究：21 件 (14 件)、研究費計：101,037 千円 (51,612 千円)</p> <p>③共同研究：16 件 (4 件)、研究費計：44,681 千円 (0 千円)</p> <p>④奨学寄附金：26 件 (24 件)、14,231 千円 (17,706 千円)</p> <p>○学内施設活用委員会において、学内施設の貸付方針に係る検討を行い、①芸術学部棟 (VR スタジオ、CG ラボ) の貸付料の設定、②学生会館の ATM 設置及び情報科学部棟外の PHS アンテナ設置の年間貸</p>	b	<p>【評価理由】</p> <p>自己収入の増加について優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。</p> <p>【コメント】</p> <p>○外部資金については、額、件数ともに増加しており、成果がうかがわれる。</p> <p>○学内施設の活用を行ったことについて評価できる。</p>	A
1 自己収入の増加	<p>1 自己収入の増加(小項目)</p> <p>(1) 外部資金の獲得に取り組むため、外部資金に関する情報収集や申請、受入等に対する支援体制を強化する。</p> <p>(2) 公開講座の拡充や大学が保有する施設、設備、機器、作品等の活用により、多様な収入の確保を図る。</p> <p>(3) 授業料等学生納付金をはじめとする業務に関する料金について、他大学の動向や社会経済情勢、法人の収支状況等を考慮した適切な料金設定を行う。</p>	<p>○外部資金獲得に係る支援体制の強化</p> <p>○多様な収入の確保</p> <p>○授業料等の料金設定の検証</p>				

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
2 管理経費の抑制 全学的視点から、業務運営の効率化、人員配置の適正化等に努め、管理経費の抑制を図る。	2 管理経費の抑制（小項目） (1) ICT の活用による業務の効率化、光熱水費等の節減、教職員一人一人のコスト意識を高めるための研修の実施等により管理経費の抑制を図る。 (2) 教育研究水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、非常勤教職員も含めた人員配置等について、定期的な見直しを行う。	○管理経費の抑制 ○教職員配置等の見直し	付、③講堂、講義室及び運動場の一時貸付を実施したほか、平成 21 年度まで国の補助事業であった「英語 e ラーニング講座」を本学独自事業として引き続き実施することなどにより、多様な収入の確保を図った。また、他大学の動向等を調査するなどにより授業料等の料金設定の検証を行った。 以上のように、自己収入の増加を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。			
			小項目評価 以下の実績のとおり、管理経費の抑制を行った。また、人員配置の適正化に向けて、非常勤講師の見直しの検討を行うとともに、事務局各部署の業務負荷を見ながら兼務による応援体制を組むなど職員の弾力的な人員配置を行った。 【平成 22 年度取組実績】 ①電気供給に関する入札 (平成 22 年 2 月入札 3 か年契約 ※平成 21 年度以前から実施) ②不用電灯の消灯（※平成 21 年度以前から実施） 昼休憩時間の事務室の消灯 全施設共用部の間引き点灯 外灯の間引き点灯及び点灯開始時間の管理 (日没時間により開始時間を調整) 学部棟トイレのセンサー管理による電灯管理 ③池の水の雨水利用（※平成 21 年度から実施） ④ライセンスの一括導入による教育研究環境改善及び管理経費の抑制 平成 22 年 10 月：マイクロソフト包括ライセンス導入 平成 23 年 2 月：Adobe 教育機関向け CLP ライセンスプログラム導入 ⑤学生寮における電力使用量の見える化（平成 22 年 7 月：実証実験） 以上のように、管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 管理経費の抑制を図るための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。	B
第 5 自己点検及び評価に関する目標	第 5 自己点検及び評価に関する目標を達成するためとるべき措置（大項目）（小項目）		大項目評価 自己評価委員会の設置等による自己点検・評価体制の整備、評価結果を大学運営の改善に活用する仕組みの構築等、計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。	b	【評価理由】 自己点検及び評価全般に関し優れた取組を実施したと認められることから、「A」と評価した。	A

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
<p>自己点検、自己評価及び第三者機関による評価を定期的実施することにより、大学運営の改善に努める。また、評価に関する情報を積極的に公開する。</p> <p>第 6 その他業務運営に関する重要目標</p> <p>1 施設及び設備の適切な維持管理等 快適なキャンパス</p>	<p>1 定期的に自己点検及び自己評価を行う体制を整備する。</p> <p>2 自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みを構築する。</p> <p>3 自己評価及び第三者機関による評価に関する情報をホームページ等で積極的に公開する。</p> <p>4 教員活動情報の外部への公開を前提とした多面的な視点による教員評価制度を導入する。(再掲)</p> <p>5 教員評価の結果を人事等に反映させる仕組みを構築する。(再掲)</p> <p>第 6 その他業務運営に関する重要目標を達成するためとるべき措置(大項目)</p> <p>1 施設及び設備の適切な維持管理等(小項目)</p> <p>(1) 施設及び設備の効率的な</p>	<p>○自己評価委員会の設置</p> <p>○点検・評価結果を大学運営の改善に反映させるための仕組みの構築</p> <p>○評価結果のホームページ等での公開</p> <p>○評価項目の設定</p> <p>○評価基準等の検討</p> <p>○評価結果を人事等に反映させるための仕組みの検討</p> <p>○施設・設備の効率的な</p>	<p>小項目評価</p> <p>○定期的に自己点検及び自己評価を行う体制として、平成 22 年 4 月に全学委員会として理事長、理事(常勤)、学部長、平和研究所長、副学部長及び平和研究所副所長からなる自己評価委員会を設置した。</p> <p>○自己点検、自己評価及び第三者機関による評価の結果を、大学運営の改善のために活用する仕組みとして、平成 22 年 4 月に自己評価後における改善措置に係る規程を整備した。</p> <p>○平成 21 年度に実施した自己点検・評価報告書((財)大学基準協会による評価のために作成)を平成 22 年 10 月に本学ウェブサイトのリニューアルに合わせて公開した。</p> <p>以上のように、自己点検及び評価に係る体制整備等の取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔コメント〕</p> <p>○自己評価の体制を確立したこと、ウェブサイトへの公表等評価できる。公表については、もう少しアクセスしやすいものであってほしい。</p> <p>○他大学に比してよくやっていると思われる。</p>	
			<p>大項目評価</p> <p>災害等不測の事態に適切に対応するための危機管理マニュアルの作成、学生及び教職員の安全衛生に係る講習会の開催、職場巡視等の実施、教員によるセクシュアル・ハラスメント事案への迅速かつ的確な対応等、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組並びに省エネタイプの冷暖房設備の導入など施設及び設備の適切な維持管理に係る取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>その他業務運営に関する重要目標を達成するための取組を計画どおり着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。</p>	B
			<p>小項目評価</p> <p>以下の実績のとおり、施設・設備の効率的な維持管理を実施した。また、平成 23 年 1 月から 2 月にかけて現地確認及び電気錠の入出退</p>	b	<p>〔評価理由〕</p> <p>施設・設備の適切な維持管理のための取組を計画どおり</p>	B

中期目標	中期計画	平成 22 年度(2010 年度) 年度計画	公立大学法人広島市立大学による自己評価		評価委員会による評価	
			評価理由等	記号	評価理由・コメント等	記号
環境を確保するため、既存の施設及び設備の適切な維持管理と有効活用、機能拡充のための施設及び設備の整備に取り組む。	維持管理を行うとともに、その利用状況を把握し、有効活用を図る。 (2) 教育研究機能の充実を図るため、未利用の大学隣接地へのセミナーハウス、学生寮、留学生受入施設等の新たな施設整備について検討する。	維持管理の実施 ○施設・設備の利用状況の把握	履歴確認により、各部屋の利活用実態を調査した。 【平成 22 年度取組実績】 ①学内施設の貸付方針の検討 ②平成 22 年 12 月：情報科学部棟冷暖房設備を省エネタイプへ更新（32 台） ③電気錠更新に伴うプロジェクトチームによる会議を開催し、仕様を見直し（平成 23 年度予算で更新予定） 以上のように、施設・設備の適切な維持管理のための取組を計画どおり着実に実施したことから、「b」と評価した。		着実に実施したと認められることから、「B」と評価した。 【コメント】 ○施設の利用状況の調査を行っているようであるが、内容の概略を示した上、今後に生かした取組をしていただきたい。	
2 安全で良好な教育研究環境の確保 学生や教職員の安全衛生管理、人権に関する意識の向上を図るとともに、災害等不測の事態に適切に対応できる体制の整備に取り組むことにより、安全で良好な教育研究環境を確保する。	2 安全で良好な教育研究環境の確保（小項目） (1) 災害等不測の事態に適切に対応できるよう、危機管理マニュアルを作成する。 (2) 安全衛生管理に関する研修等を定期的実施する。 (3) 定期健康診断等の実施により、教職員の健康管理を適切に行う。 (4) セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するための研修等を実施する。	○危機管理マニュアルの作成 ○安全衛生管理研修、職場巡視等の実施 ○定期健康診断等の実施 ○ハラスメントに関する相談窓口の設置 ○教職員に対するハラスメント防止の啓発	小項目評価 ○災害等不測の事態に適切に対応できるよう、平成 23 年 3 月に危機管理マニュアルを作成した。 ○平成 22 年 7 月から計 5 回職場巡視を実施したほか、同年 12 月に生活習慣病予防講習会を開催した。 ○平成 22 年 8 月から平成 23 年 3 月までの間において教職員に対し定期健康診断、特殊健康診断を実施するとともに、平成 23 年 1 月に VDT 作業従事教職員健康診断を実施した。 ○セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント等を防止するため、平成 22 年 4 月にハラスメント相談室を設置するとともに、学生向けチラシの配布（新入生オリエンテーション時）、教職員にメールによる啓発を実施したほか、同年 11 月に FD セミナーにおいて弁護士によるハラスメントの防止に関する講演会を開催した。 ○教員によるセクシュアル・ハラスメント事案が発生したが、学生への影響等を最大限考慮した迅速かつ的確な対応を行った。 以上のように、安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したものの、教員によるセクシュアル・ハラスメント事案が発生したことから、「c」と評価した。	c	【評価理由】 安全で良好な教育研究環境を確保するための取組を計画どおり着実に実施したと認められるものの、教員によるセクシュアル・ハラスメント事案が発生したことから、「C」と評価した。 【コメント】 ○計画は概ね履行されている。 ○ハラスメント相談室設置は評価すべきである。より相談しやすい体制をとるよう、教員に対しても学生に対しても、目に見える形で、広報を十分にすることが求められる。 ○災害対応を含め、危機管理体制のハード・ソフト両面について、一層の充実を期待する。 ○セクシュアル・ハラスメント事案が発生した以上、「C」と評価せざるを得ない。	C

広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

職名	氏名	現職等	備考
委員長	平澤 洽	東京大学名誉教授	
委員	金田 晋	広島大学名誉教授	
委員	下中 奈美	弁護士	
委員	高橋 正	株式会社広島銀行会長	
委員	最上 敏樹	早稲田大学教授	